

区分	基礎助産学		授業科目名	助産学概論		
単位数	1 単位	時間数	15 時間	担当教員	馬崎雅子	
特記事項	実務経験のある教員による授業科目			産婦人科病棟の助産師としての実務経験を活かし授業・演習を行う。		
科目目的	助産の変遷、助産の定義、業務の内容や範囲について学習し、専門職としての助産師の役割、責務について理解する。また、世界的な視野での助産師の活動や助産師教育の現状から、助産師の専門性や自律、将来の活動のあり方について展望できる。					
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産の定義、助産師の業務が分かり、助産の在り方について探求することの意義を理解する。 2. 母子保健の変遷と現状を知り、母子とその家族の健康を支える助産師の役割を理解する。 3. 助産師の役割・責務について理解し、助産師の専門性について考えを深める。 4. 助産師の職業倫理、生命倫理について考え、専門職としての倫理観を深める。 					
授業内容	回数	テーマ		教育内容		担当
	1	助産の概念 助産師はなにをやる人か		出産の変遷 助産の変遷 助産とは何か 助産の定義 助産の対象		馬崎
	2	保健師助産師看護師法から考える助産師 助産師に求められる能力		保健師助産師看護師法による助産師の定義 ICMによる助産師の定義 法律からみた助産師業務の範囲 職能団体による助産師業務の範囲 基本的助産業務に必須な能力 助産師の声明 助産師のコア・コンピテンシー		馬崎
	3	助産師の専門性と自律性		ICMの活動 国際活動の将来展望と課題 助産師教育の変遷 助産師教育の現状 助産師教育の展望 諸外国の助産師教育 助産実践の現状と課題 産科医療の在り方と助産師の働き方		馬崎
	4	母子保健の変遷と現状から助産師の役割を理解する		母子保健の歴史 現代の母子保健 母子保健の動向と諸制度(母子保健行政の歩み 主な母子保健施策 母子保健の基盤整備) 健やか親子21 (2次) ⇒地域母子保健へ		馬崎
	5	助産師と倫理①		助産師としての職業倫理 ICM 助産師の倫理綱領 助産師の倫理綱領 (助産師の声明) 助産師としての倫理的意思決定		馬崎
	6	助産師と倫理②		今日の生命倫理的課題と助産師の役割 人工妊娠中絶の事例における助産師としての 意思決定 グループワーク		馬崎
	7	助産師と倫理③		人工妊娠中絶の事例における助産師としての 意思決定 グループワーク まとめ		馬崎
	8	終了試験				馬崎

評価	筆記試験 80%、グループワークの参加度、レポート 20% 100 点満点 60 点以上合格
教科書	我部山キヨ子・武谷雄二編 助産学講座 1 助産学概論 医学書院 福井トシ子編 助産師業務要覧 基礎編 第 3 版 2021 年版 日本看護協会出版会 福井トシ子編 助産師業務要覧 実践編 第 3 版 2021 年版 日本看護協会出版会
参考文献	工藤美子 助産師基礎教育テキスト 第 1 巻 助産概論 日本看護協会出版会 日本助産師会編 助産師の声明 サラ T フライ メガン・ジェーン・ジョンストン 看護実践の倫理第 3 版 倫理意志決定のためのガイド 日本看護協会出版会

区分	基礎助産学		授業科目名	ウィメンズヘルス論	
単位数	1単位	時間数	30時間	担当教員	佐藤牧花 宮原陽 大場隆
特記事項	実務経験のある教員（専任教員佐藤牧花）による授業科目			産婦人科病院での助産師の実務経験を活かし授業・演習を行う。	
科目目的	リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から女性の健康を捉え、女性の一生を通じて性と生殖に関わる健康問題について支援するための基礎知識を学ぶ。また、各ライフステージにある女性の特徴と健康問題を学ぶ。				
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生殖の形態・構造・機能について理解する。 2. 「人間の性」について身体的、社会・文化的側面から理解する。 3. リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から思春期・成熟期・更年期・老年期に起こりやすい健康問題と援助活動に必要な知識について理解する。 4. 女性の健康問題および発症しやすい疾患についての病態・検査・治療について理解する。 				
授業内容	回数	テーマ	教育内容		担当
	1	ウィメンズヘルス リプロダクティブヘルス/ライツ 女性の身体のしくみ 女性の生理学	ウィメンズヘルスについて リプロダクティブヘルス/ライツ 成人女性の内性器・外性器（事前課題） 成人男性の内性器・外性器（事前課題） 女性の骨盤・骨格の仕組み、骨盤底筋群、骨盤内の血管・神経系（事前課題） 女性のホルモン動態と性周期		佐藤
	2	性科学	性科学の概念 セックスとは ジェンダーとは セクシュアリティとは セックス・ジェンダー・セクシュアリティの関係 多様な性		佐藤
	3	ライフサイクル各期における特徴	思春期女性の身体的特徴・心理社会的特徴 成熟期女性の身体的特徴・心理社会的特徴 ライフサイクル各期におけるセクシュアリティについて		佐藤
	4	ライフサイクル各期における特徴	更年期女性の身体的特徴・心理社会的特徴 老年期女性の身体的特徴・心理社会的特徴 ライフサイクル各期におけるセクシュアリティについて		佐藤
	5	生殖に関連する疾患の病態・検査・治療①	月経前症候群 月経困難症 月経期症候群（PEMS） 無月経		宮原
	6	生殖に関連する疾患の病態・検査・治療②	無月経以外の異常・無排卵周期症・黄体機能不全 機能性子宮出血 性分化異常 性器形態の異常		宮原
	7	生殖に関連する疾患の病態・検査・治療③	更年期障害 委縮性膣炎 尿失禁 骨盤内臓器脱		宮原
	8	生殖に関連する疾患の病態・検査・治療④	子宮内膜症 子宮腺筋症 子宮筋腫		宮原
	9	生殖に関連する疾患の病態・検査・治療⑤	子宮頸がん 子宮体がん 卵巣がん 絨毛性疾患		宮原

	10	不妊症①	不妊症の定義・現状 不妊症の原因・検査 一般不妊治療 不妊治療の抱える問題（不確実性・年齢）	大場
	11	不妊症② 生殖補助医療	生殖補助医療の実際 生殖補助医療の問題点 検査・治療を受ける女性の心理ケア⇒心理 社会学へ 不妊カウンセリング⇒診断技術Ⅳへ	大場
	12	ライフサイクルにおける性と 生殖に関する健康問題と援助	思春期女性の健康問題と援助 成熟期女性の健康問題と援助	佐藤
	13	ライフサイクルにおける 性と生殖に関する健康問 題と援助	更年期女性の健康問題と援助 老年期女性の健康問題と援助	佐藤
	14	性感染症とヘルスプロモ ーション 人工妊娠中絶を受ける女 性への援助	妊娠・出産・育児と性感染症 性感染症の予防 人工妊娠中絶の適応 動向 中絶の方法 母体に及ぼす影響と支援 中絶を受ける女性の心理とカウンセリング	佐藤
	15	終了試験		佐藤 宮原 大場
授業 方法	講義			
評価	筆記試験 100% 100点満点 60点以上合格			
教科 書	①吉沢豊与子 助産師基礎教育テキスト 女性の健康とケア 日本看護協会出版会 ②我部山キヨ子・武谷雄二編 助産学講座2 母子の基礎科学 医学書院 ③我部山キヨ子・武谷雄二編 助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ 医学書院 ④病気が見えるvol9 婦人科 乳腺外科 MEDIC MEDIA ⑤病気が見えるvol10 産科 MEDIC MEDIA			
参 考 文献	村本淳子他 ウィメンズヘルスナーシング概論 女性の健康と看護第2版 ニューヴェルヒロカワ 高橋真理他 女性のライフサイクルとナーシング 第2版 ニューヴェルヒロカワ 松本清一 北村邦夫 思春期婦人科外来 診療・ケアの基本から実際まで 第2版 文光堂 松本清一 月経らくらく講座 もっと上手に付き合い、素敵に生きるために 文光堂 木村好秀 齋藤益子 家族計画指導の実際第2版 医学書院 産婦人科診療ガイドライン 婦人科外来編 2017 日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会			

区分	基礎助産学		授業科目名	母子の健康科学論	
単位数	1 単位	時間数	30 時間	担当教員	庄司省三 西本初江 橋田香 富永万里子
科目目的	母子の健康に影響を及ぼす遺伝、免疫、環境に関する基礎知識、また、周産期を中心とした薬剤の影響、栄養などについて学び、助産実践の基礎的・科学的基盤となる知識を習得する。 また、東洋医学の基本的な考え方を学び、子どもと女性の一生に関わる助産師のケアに活用する。				
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産の対象理解および助産実践の根拠につながる知識として、遺伝、免疫に関する基礎知識を理解する。 2. 環境、薬剤、栄養、運動などの母子への影響について理解し、健康生活を支援するための基礎知識を理解する。 3. 東洋医学の基礎学び、女性の健康生活を支援するためのケアの方法を理解する。 				
授業内容	回数	テーマ	教育内容		担当
	1	遺伝と遺伝性疾患①	遺伝学の概要 遺伝医学と倫理 染色体の構造と機能 染色体異常		庄司
	2	遺伝と遺伝性疾患②	遺伝子の構造と機能 遺伝子異常 遺伝子疾患の分類		庄司
	3	母子と免疫①	免疫学の基礎 自然免疫 獲得免疫 自然免疫と獲得免疫のつながり 難病・自己免疫疾患		庄司
	4	母子と免疫②	母子免疫とは母子免疫の定義（妊娠維持機構） ウイルス学とウイルス感染症・母子感染症 予防接種		庄司
	5	母子と生活環境①	生活環境と環境汚染 生活環境とは 大気汚染 土壌汚染 水質汚染 電磁界 放射線 騒音		庄司
	6	母子と生活環境②	母子と化学物質 食品添加物 残留農薬 遺伝子組み換え食品 内分泌化学物質		庄司
	7	母子と薬剤①	思春期・成熟期・更年期と薬物 使用される薬剤の作用・副作用・使用方法・注意事項 経口避妊薬 排卵誘発剤 性ホルモン剤 妊娠・分娩・産褥と薬物 薬物の催奇形性 薬物の胎盤通過性		庄司
	8	母子と薬剤②	妊娠中に使用される薬剤 子宮収縮剤 子宮収縮抑制剤 妊娠中に実際に注意すべき薬剤 分娩期周辺の薬剤 薬物の母乳移行 救命処置のための薬物		庄司

	9	母子と栄養①	母子の栄養の意義 母子の食をめぐる現状と課題 妊婦の栄養 授乳婦の栄養	西本
	10	母子と栄養②	乳幼児の栄養 思春期の栄養	西本
	11	母子と栄養③	妊産婦の病態栄養 つわり 悪阻 肥満 糖尿病 妊娠高血圧症候群 貧血 食物アレルギー 便秘	西本
	12	母子の歯科保健	歯・口腔の発生発育とその異常 摂食と口腔機能の発達 乳幼児のう蝕 妊婦・産後の歯科保健	富永
	13	母子と運動①	妊産婦の運動生理学 運動に対する母体の反応 妊婦スポーツの安全管理	橋田
	14	母子と運動②	妊産婦の運動の実際	橋田
	15	終了試験		庄司 西本
評価	筆記試験 90%、レポート 10% 100 点満点 60 点以上合格			
教科書	我部山キヨ子・武谷雄二編 助産学講座 2 母子の基礎科学 医学書院 我部山キヨ子・武谷雄二編 助産学講座 3 母子の健康科学 医学書院 病気が見える vol 110 産科 MEDIC MEDIA			
参考文献				

区分	基礎助産学		授業科目名	母子の心理社会学	
単位数	1 単位	時間数	30 時間	担当教員	坂梨 京子
科目目的	母性をめぐる現状と課題、妊産褥婦の心理的变化、母子をとりまく家族の発達過程と家族関係を理解し、その中でライフサイクルの観点から母性・父性の心理的・社会的行動発達に関して理解を深める。今日の母子を取り巻く心理社会的問題を父性・子ども・家族との関係で捉え、親性の形成に必要な援助方法を学ぶ。助産診断の中でも心理社会的診断が行える基礎知識を修得するとともに女性に寄り添う意味を理解する。				
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性のライフサイクルにおける心理社会的問題について理解する。 2. 母性の心理発達過程とその影響要因について理解する。 3. 親となる過程について理解する。 4. 妊産褥婦のメンタルヘルスを理解し、妊娠期からの心理的ケアについて述べることができる。 5. 遺伝上の問題を抱える母親の心理とケアについて理解する。 6. 不妊症の女性の心理とケアについて理解する。 7. 子どもの死・障害の受容過程とそのケアについて理解する。 				
授業内容	回数	テーマ	教育内容		担当
	1	女性のライフサイクルとメンタルヘルス①	思春期・青年期の女性のメンタルヘルスと支援		坂梨
	2	女性のライフサイクルとメンタルヘルス②	成人期・中年期・更年期・老年期の女性のメンタルヘルスと支援		坂梨
	3	母性をめぐる現状と課題	母性とは 母性概念の変遷 「3歳児神話について」		坂梨
	4	母子関係・父子関係の成立とケア①	母子関係・父子関係成立過程 父母と社会 子どもと社会 役割遂行への支援とその課題		坂梨
	5	母子関係・父子関係の成立とケア②	家族のライフサイクル 家族形成における親 家族の発達段階説の理解 家族と社会		坂梨
	6	母子関係・父子関係の成立とケア③	親—子関係をめぐる問題 母性 父性 親性 母—子 父—子 子育て支援 支援相談機関		坂梨
	7	周産期の女性の心理①	妊娠中の女性の心理		坂梨
	8	周産期の女性の心理②	分娩中の女性の心理		坂梨
	9	周産期の女性の心理③	褥婦の心理 マタニティーブルーズ 産後うつ 産褥精神病 女性の就労と育児		坂梨
	10	周産期の女性のストレス①	周産期に子どもの死を体験する女性の心理とケア グループワーク		坂梨
	11	周産期の女性のストレス②	障害を持つ子どもを出産する女性の心理とケア グループワーク		坂梨
12	周産期の女性のストレス③	遺伝相談における心理とケア グループワーク		坂梨	

	13	先端医療を受ける女性の心理①	不妊検査・不妊治療を受ける女性の心理とケア	坂梨
	14	先端医療を受ける女性の心理②	出生前診断(羊水穿刺)を受ける女性の心理とケア グループワーク	坂梨
	15	終了試験		坂梨
授業方法	講義、グループワーク レポート《各グループワーク終了後にレポート A4 1枚提出 800字程度》			
評価	筆記試験 100% グループワーク参加度 100点満点 60点以上合格			
教科書	村瀬聡美 我部山キヨ子・武谷雄二編 助産学講座4 母子心理・社会学 医学書院 講義時資料配布			
参考文献	クラウド・ケネル著 竹内徹訳 親と子の絆はどう作られるか 医学書院 2001 新道幸恵 北村俊則編著 心理的問題を持つ妊産褥婦のケア 医学書院 2005 Rubin 著 新道幸恵・後藤桂子訳 母性論 母性の主観的体験 医学書院 1997			

区分	基礎助産学		授業科目名	周産期学	
単位数	1 単位	時間数	30 時間	担当教員	片瀧美和子
科目目的	妊娠・分娩・産褥の各期に起こる可能性のある異常の病態及び治療を学び、正常からの逸脱の判断と援助ができるための基礎知識を修得する。				
科目目標	1. 妊娠の各時期に起こる可能性のある各々の異常の病態・検査・治療・管理が理解できる。 2. 分娩期に起こる可能性のある各々の異常の病態・検査・治療・管理が理解できる。 3. 産褥期に起こる可能性のある各々の異常の病態・検査・治療・管理が理解できる。				
授業内容	回数	テーマ	教育内容		担当
	1	妊娠期の異常① 妊娠初期の異常 胎児性の異常 i	妊娠悪阻 流産（習慣流産・抗リン脂質抗体症候群） 子宮外妊娠 多胎妊娠 子宮内胎児発育遅延		片瀧
	2	妊娠期の異常② 胎児性の異常 ii 妊娠中～後期の異常	血液型不適合妊娠 妊娠高血圧症候群 子癇 HELLP 症候群		片瀧
	3	妊娠期の異常③ 胎児付属物の異常	常位胎盤早期剥離 前置胎盤・（低置胎盤）・癒着胎盤 羊水異常（羊水過多症・羊水過少症）		片瀧
	4	妊娠期の異常④ 持続期間の異常	早産（切迫早産・絨毛膜羊膜炎・頸管無力症・前期破水）*頸管縫縮術を含む 過期産		片瀧
	5	合併症妊娠①	心疾患 呼吸器疾患 腎疾患 自己免疫疾患（突発性血小板減少性紫斑病・全身性エリテマトーデス・甲状腺機能亢進症） 婦人科疾患（子宮奇形・子宮筋腫・子宮頸がん・卵巣腫瘍）⇒ウイメンズヘルスへ		片瀧
	6	合併症妊娠②	糖代謝異常合併妊娠 精神疾患合併妊娠		片瀧
	7	合併症妊娠③ 母子感染症	母子感染様式と経路 感染後の抗体価の変動 各感染症の原因・病態・検査・治療 風疹 サイトメガロウイルス（CMV）感染症 伝染性赤斑 水痘感染症 単純ヘルペスウイルス感染症 B型肝炎・C型肝炎ウイルス 成人T細胞白血病ウイルス ヒト免疫不全ウイルス 梅毒 淋菌感染症 B群連鎖球菌（GBS）感染症 カンジダ膣炎 トキソプラズマ感染 クラミジア感染		片瀧
	8	胎児機能不全と胎児心拍数モニタリング①	胎児機能不全の概念 低酸素による胎児への影響と合併症 胎児機能不全の分類・原因・所見 胎児心拍数モニタリングによる胎児機能不全の診断・対応・処置 胎児心拍数モニタリングの基礎知識		片瀧
	9	胎児機能不全と胎児心拍数モニタリング②	胎児心拍図の判読 胎児心拍数基線 胎児心拍図の周期的変化 症例による判読		片瀧

	10	分娩の異常① 分娩の進行に関する異常 臍帯の異常	陣痛の異常（微弱陣痛・過強陣痛） 産道の異常（児頭骨盤不均衡・狭骨盤） 巨大児の取り扱い（肩甲難産・マックロバーツ法） 胎勢の異常（反屈位の分娩機転） 回旋の異常（第2回旋の異常） 胎位の異常（骨盤位・横位） 進入の異常（不正軸進入） 臍帯の異常（臍帯巻絡・付着部位・臍帯下垂・脱出） *陣痛誘発と陣痛抑制を含む（産婦人科診療ガイドライン） *骨盤位の娩出法含む	片渕
	11	分娩の異常②	子宮破裂 子宮内反症 弛緩出血 双合子宮圧迫法 産科危機的出血への対応フローチャート 頸管裂傷 膣・会陰裂傷⇒診断技術Ⅱへ	片渕
	12	分娩の異常③	産科ショック 産科DIC 羊水塞栓症	片渕
	13	分娩の異常④ 産科手術および産科的医療処置	急速遂娩（吸引分娩・鉗子分娩） 帝王切開 分娩・出産の鎮痛法（無痛分娩） 帝王切開既往妊婦の管理 胎盤用手剥離	片渕
	14	産褥期の異常	子宮復古不全 晩期産褥出血 産褥熱 血栓性静脈炎・深部徐脈血栓症 マタニティブルーズ・産うつ⇒心理社会学へ 乳腺炎⇒診断技術Ⅲへ	片渕
	15	終了試験		片渕
授業方法	講義			
評価	筆記試験 100% 100点満点 60点以上合格			
教科書	我部山キヨ子・武谷雄二編 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ（妊娠期） 医学書院 我部山キヨ子・武谷雄二編 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ（分娩・産褥期） 医学書院 病気が見えるvol10 産科 第4版 MEDIC MEDIA 中井章人 図説CTGテキスト MEDICALVIEW			
参考文献	荒木勤 最新産科学 異常編 改訂22版 文光堂 2012 遠藤俊子 助産師基礎教育テキスト 第7巻ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 日本看護協会出版会 池ノ上克 周産期管理 メディカ出版 病気が見えるvol9 婦人科乳腺外科 第4版 MEDIC MEDIA 産婦人科診療ガイドライン産科編2017 日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会 藤森敬也 胎児心拍数モニタリング講座 改訂3版 メディカ出版			

区分	基礎助産学		授業科目名	新生児病態生理学	
単位数	1 単位	時間数	15 時間	担当教員	川瀬昭彦
科目目的	新生児の適応生理、主要症候、重要疾患の病態を学び、新生児の健康状態の診断およびケアのための基礎知識とする。				
科目目標	1. 新生児早期の適応生理について機能別に理解する。 2. 新生児のフィジカルアセスメントの視点と方法を理解する。 3. 新生児に起こりやすい主要症候の病態、観察の視点を理解する。 4. 重要疾患の診断・治療について理解する。				
授業内容	回数	テーマ	教育内容		担当
	1	新生児の適応生理①	呼吸器系の適応 循環器系の適応 体温調節 肝機能の適応		川瀬
	2	新生児の適応生理②	消化器系の適応 水分・電解質バランスと腎機能の適応 免疫系の適応 行動と感覚器系の適応		川瀬
	3	新生児のフィジカルアセスメント	出生体重と在胎期間による分類 外観の特徴 バイタルサイン 皮膚 皮膚色 頭部 顔面 体幹 性器 四肢 神経学的状態		川瀬
	4	新生児に起こりやすい主要な病態①	胎児発育異常 胎児発育不全 巨大児 先天奇形 呼吸障害 呼吸窮迫症候群 新生児一過性多呼吸 胎便吸引症候群 無呼吸発作 慢性肺疾患 チアノーゼと心不全 チアノーゼ型先天性心疾患 非チアノーゼ型先天性心疾患 未熟児動脈管開存症		川瀬
	5	新生児に起こりやすい主要な病態②	多血と蒼白 嘔吐と腹部膨満 上部消化管出血 機能的腸閉塞 機械的腸閉塞 新生児けいれん 低酸素性虚血性脳症 頭蓋内出血 低血糖症 低カルシウム血症		川瀬
	6	新生児に起こりやすい主要な病態③	病的黄疸 新生児溶血性疾患 核黄疸 新生児黄疸の予防策と治療 感染症 先天感染 産道感染 敗血症 髄膜炎 臍帯の感染 皮膚の感染 結膜炎 常染色体異常・性染色体異常		川瀬

	7	新生児に起こりやすい主要な病態④	分娩損傷 軟部組織の損傷 頭蓋内出血 骨折 末梢神経の損傷 適応障害 新生児仮死 新生児遷延性肺高血圧症 メレナ 低出生体重児の疾患 脳室内出血 脳室周囲白質軟化症 新生児壊死性腸炎 未熟児貧血 未熟児くる病 未熟児網膜症 新生児皮膚疾患	川瀬
	8	終了試験		川瀬
授業方法	講義			
評価	筆記試験 100% 100点満点 60点以上合格			
教科書	我部山キヨ子・武谷雄二編 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ（新生児期・乳幼児期） 医学書院			
参考文献	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 医学書院 2015 病気が見えるvol10 産科 MEDIC MEDIA			

区分	助産診断・技術学		授業科目名	助産診断・技術学 I (総論・妊娠期にある対象の助産診断と技術)	
単位数	2 単位	時間数	45 時間	担当教員	佐藤牧花 武原夕子 大場隆
特記事項	実務経験のある教員 (専任教員 佐藤牧花) による授業科目			産婦人科病院での助産師の実務経験を活かし授業・演習を行う。	
科目目的	助産過程の展開に必要な助産診断・技術についての基礎知識を修得する。 また妊婦健康診査に必要なフィジカルイグザミネーションを身に付け、助産診断とケアを実施するための基礎知識・技術を修得する。				
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産診断の概念と診断過程を理解する。 2. 妊娠期の助産診断の特徴と過程を理解する。 3. 妊娠期の助産診断に必要な妊娠の生理、妊娠の経過について理解する。 4. 正常な妊娠経過および異常経過の知識をもとに妊娠期の助産診断ができる。 5. 妊娠期の助産診断のための健康診査の技術を習得する。 6. 妊娠期の助産ケアに必要な、エビデンスをふまえた技術を習得する。 7. 妊娠期を対象とした健康教育技術を習得する。 				
授業内容	回数	テーマ	教育内容		担当
	1	助産の援助技術とは 助産活動を支える理論と技術の基本	助産診断技術学 I・II・III・IVの位置づけ 助産の援助技術とは 援助の基本 母子の安全管理 安楽 セルフケア 援助技術の基本 対象の理解 移行 women-centered midwifery 問題解決プロセス 根拠に基づく助産活動		佐藤
2	助産診断・技術学の概要 助産診断・技術学の概念 助産診断の概要 助産技術の概要 マタニティ診断概論	助産診断とは 定義 範囲 診断類型 診断過程 ウェルネス診断 リスク診断 助産技術とは 技術の構成 母子の安全・安楽を守る技術		佐藤	
3	妊娠期の助産診断の特徴と診断類型 妊娠期の助産診断の事例展開	妊娠期の助産診断の特徴 妊娠期の助産診断の類型 展開事例の提示		佐藤	
4	妊娠期の経過診断に必要な知識 妊娠の生理、	妊娠の成立 妊娠維持機構		佐藤	
5	妊娠期の経過診断に必要な知識 分娩時期の診断	妊娠の診断 (妊娠反応) 分娩時期の診断		佐藤	
6	妊娠期の経過診断に必要な知識 母体の生理学的変化 母体の全身の変化	母体の生理学的変化		佐藤	
7	妊娠期の経過診断に必要な知識 胎児の成長と発達	胎芽~胎児期の成長 器官の発生 発育と形態の変化 各器官・臓器の成熟		佐藤	
8	妊娠期の経過診断に必要な知識 胎児付属物	胎盤の構造と機能 臍帯 卵膜 羊水		佐藤	
9	妊娠期のフィジカルアセスメント① 母体と胎児の管理	胎児 well-being の評価 ・ Biophysical profile scoring (B P S) 超音波断層法の実際 (演習含む)		大場	

	テキスト⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・経膈法と経腹法 ・超音波検査の内容 ・胎児の計測と胎児異常のチェック ・羊水量の測定 ・超音波ドブラ法 	
10	妊娠期のフィジカルアセスメント② 妊婦の健康診査に必要な技術	妊婦健康診査（目的・時期・方法） 問診 視診 触診（レオポルド触診 ザイツ法） 計測診 聴診 内診	佐藤
11	妊娠期のフィジカルアセスメント③ 妊婦の健康診査に必要な技術 ii	演習	佐藤
12	妊娠期のフィジカルアセスメント④ 妊婦の健康診査に必要な技術 iii	演習 NSTの装着含む	佐藤
13	日常生活適応へのケア 妊娠期の保健指導	<p>妊娠期の保健指導とは</p> <p>体重の変化 姿勢と日常生活動作 移動・旅行 睡眠・休息 排泄・排泄習慣行動 身体の清潔 皮膚の変化 衣服・靴 嗜好品（喫煙・飲酒・カフェイン） 性生活 妊娠期のマイナートラブルへの支援</p> <p>栄養摂取⇒健康科学2コマへ 運動⇒健康科学1コマへ 口腔衛生⇒健康科学1コマへ</p>	佐藤
14	親になる準備へのケア	<p>親になる準備</p> <p>母子健康手帳の活用 異常徴候の早期発見 分娩開始時期の判断 社会資源の活用</p> <p>出産に向けての準備</p> <p>施設と出産方法選択 バースプラン 里帰り出産 入院・物品の準備</p> <p>出産準備教室の目的・内容</p> <p>母子関係・父子関係 役割遂行への支援 家族としての発達⇒心理社会学へ 出産準備教室詳細⇒診断技術IVへ 授乳の準備⇒診断技術III</p>	佐藤
15	事例における妊娠期の経過診断 心理的・社会的アセスメントとケア	第14回までの知識を活用した提示事例の経過診断 事例により心理・社会的側面のアセスメント（健康生活診断）	佐藤
16	ハイリスク・異常妊婦のアセスメントと支援①	<p>ハイリスク妊娠とは</p> <p>身体的ハイリスク因子のアセスメント</p> <p>バイタルサイン 全身状態 妊娠・分娩歴 産科病歴 既往歴 家族歴 合併症</p> <p>心理社会的因子のアセスメント</p>	武原

		妊娠の受容 出産体験 家族関係 婚姻 経済的状况	
17	ハイリスク・異常妊婦のアセスメントと支援②	支援の基本 薬物療法 セルフケア能力 家族関係 カウンセリング 社会資源の活用 職種間のチームワーク	武原
18	ハイリスク・異常妊婦のアセスメントと支援③	切迫早産 妊娠高血圧症候群の妊産婦のアセスメントと支援 (事例)	武原
19	ハイリスク・異常妊婦のアセスメントと支援④	切迫早産 妊娠高血圧症候群の妊産婦のアセスメントと支援 (事例)	武原
20	妊娠期の助産診断過程 演習		佐藤
21	妊娠期の助産診断過程 まとめ①		佐藤
22	妊娠期の助産診断過程 まとめ②		佐藤
23	終了試験		佐藤 武原
授業方法	プレテスト 講義 助産診断は講義後紙上事例を用いて展開する 技術演習 課題 妊婦への保健指導用パンフレット作成		
評価	筆記試験 75%、事例展開の課題 15%、パンフレット内容グループ参加状況 10% 100点満点 60点以上合格		
教科書	我部山キヨ子・武谷雄二編 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ(妊娠期) 医学書院 我部山キヨ子・武谷雄二編 助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ 医学書院 日本助産診断・実践研究会編著 実践マタニティ診断第4版 医学書院 病気が見えるvol10 産科 MEDIC MEDIA 平澤美恵子・村上睦子(監) 写真でわかる助産診断技術アドバンス インターメディカ		
参考文献	森恵美 助産師基礎教育テキスト第4巻 妊娠期の診断とケア 日本看護協会出版会 我部山キヨ子著 臨床助産師必携 第2版 医学書院 我部山キヨ子 大石時子編 助産師のためのフィジカルイグザミネーション 医学書院 2018 荒木勤 最新産科学 正常編 文光堂		

区分	助産診断・技術学		授業科目名	助産診断・技術学Ⅱ（分娩期にある対象の助産診断と技術）	
単位数	2単位	時間数	60時間	担当教員	馬崎雅子 前田隆宏 山本愛
特記事項	実務経験のある教員（専任教員馬崎雅子）による授業科目			産婦人科病棟での助産師の実務経験を活かし授業・演習を行う。	
科目目的	分娩期にある妊産婦と胎児および家族に対する助産診断およびケアを実施するための基礎知識・技術を修得する。 また、出生直後の新生児に対する助産診断およびケアの基礎知識・技術を修得する。				
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩期の助産診断に必要な分娩の生理、経過について理解する。 2. 分娩期の助産診断のための健康診査の方法を理解し実施できる。 3. 正常な分娩経過および異常経過の知識をもとに分娩期の助産診断ができる。 4. 分娩期の助産ケアに必要な、基本的な技術を実施できる。 5. 出生直後の新生児の助産診断とケアの方法を理解し実施できる。 6. 分娩期の助産診断の特徴と過程を理解する。 				
授業内容	回数	テーマ	教育内容		担当
	1	分娩期の経過診断に必要な分娩の生理①	分娩期の助産診断技術における学習内容 分娩の定義 正常な分娩の経過		馬崎
	2	分娩期の経過診断に必要な分娩の生理②	産道の構造と分娩による変化 分娩時における胎児の位置		馬崎
	3	分娩期の経過診断に必要な分娩の生理③	娩出力の生理 陣痛の計測		馬崎
	4	分娩期の助産診断の特徴と診断類型 助産計画立案過程	分娩期の助産診断の特徴 分娩期の助産診断類型とケア計画 事例提示		馬崎
	5	分娩期のフィジカルアセスメント① 産婦の健康診査	産婦の健康診査の目的 健康診査に必要な技術 問診 外診 内診 臨床検査 入院時の健康診査 分娩開始の診断（ビショップスコア）		馬崎
	6	分娩期のフィジカルアセスメント②	分娩期の経過診断 娩出力の診断 産道の診断 胎児の位置の診断 分娩進行状態の診断 ビショップスコアと分娩経過 フリードマン頸管開大曲線 パルトグラム の使い方 分娩監視装置の使用		馬崎
	7	分娩期のフィジカルアセスメント③ 分娩期の心理社会的アセスメント	児の健康状態のアセスメント 胎児付属物のアセスメント 分娩期の心理社会的変化 産婦の分娩への適応状態の診断 家族の分娩への適応状態の診断		馬崎
	8	分娩経過に沿ったケア 産痛緩和	入院前・入院時のケア 基本的ニーズに対するケア（主に第1期のケア） 分娩促進のためのケア 産痛の機序 痛緩和の意義 産痛緩和 自由な姿勢 継続的なサポート 演習を含める		馬崎
	9	分娩経過に沿ったケア	無痛分娩時のケア		山本
	10	分娩介助に関わる助産技術①	分娩介助演習、試験の進め方 分娩介助の意義・原理 分娩に向けた準備（分娩室の準備 必要物品の準備 手洗い ガウンテクニック 外陰部洗浄の方法 清潔野の作成）		馬崎
	11	分娩介助に関わる助産技術②	正常分娩介助法の整理 会陰保護の原理 分娩姿勢に応じた会陰保護		馬崎

		分娩介助時の技術 努責の誘導 肛門保護 仰臥位における会陰保護 切断 胎盤娩出	
12	分娩介助に関わる助産技術③	付属物の検査と計測 分娩後 2 時間のケア 出生直後の新生児ケア カンガルーケアの意義と方法 保温 呼吸確立のケア アプガースコアの判定 臍処置 点眼 全身の観察と身体測定	馬崎
13	分娩介助技術演習 一連の流れ	デモンストレーション 分娩に向けた準備 分娩介助 間接介助	馬崎
14	分娩介助技術演習	グループ演習	馬崎
15	分娩介助技術演習	グループ演習	馬崎
16	分娩介助技術試験	経膈分娩介助の準備から胎盤娩出まで 直接介助 間接介助	馬崎 全員
17	分娩介助技術試験		全員
18	分娩介助技術試験		全員
19	分娩介助技術試験		全員
20	ハイリスク・異常分娩時のアセスメントと支援	身体的ハイリスク因子・心理的ハイリスク因子のアセスメント 正常経過からの逸脱のリスク評価と逸脱の早期発見	馬崎
21	分娩経過の異常とケア	子宮収縮促進薬使用時のアセスメントとケア 前期破水の産婦へのケア	馬崎
22	産科手術の介助とケア	帝王切開術前後のアセスメントとケア クリステル胎児圧出法 吸引分娩時の助産	馬崎
23	緊急時の対応	分娩時異常出血への対応 母体の蘇生技術 (AED) 母体搬送の必要性の判断と実践	馬崎
24	中間テスト 助産診断過程事例まとめ		馬崎
25	分娩介助に関わる助産技術⑥ 会陰の縫合 演習	会陰の解剖 会陰裂傷 会陰切開 縫合技術の演習	前田
26	演習：実習経験のまとめ 分娩介助技術の相互評価	4 グループに分かれてのグループワーク 分娩介助技術は事例を設定しての相互評価 事例の助産診断と助産実践に対する評価を グループで検討 (2 グループずつにわかれて 1 コマずつ実施し、3 コマ目にグループの評価を発表)	馬崎
27	演習：実習経験のまとめ 事例による助産診断と助産実践 の評価		馬崎
28	演習：実習経験のまとめ 事例による助産診断と助産実践 の評価 発表		馬崎
29	演習：実習経験のまとめ 事例による助産診断と助産実践 の評価 発表		馬崎
30	終了試験		馬崎
授業方法	講義、演習		
評価	筆記 (中間) 試験 40%、分娩介助技術試験 20%、筆記試験 40% 100 点満点 60 点以上合格		
教科書	我部山キヨ子・武谷雄二編 助産学講座 7 助産診断・技術学 II (分娩・産褥期) 医学書院 日本助産診断・実践研究会編著 実践マタニティ診断 医学書院 第 4 版 2016 写真でわかる助産技術 インターメディカ 2016 荒木勤 最新産科学 正常編 文光堂 病気が見える v o l 10 産科 MEDIC MEDIA		
参考文献	町浦美智子 助産師基礎教育テキスト 5 分娩期の診断とケア 日本看護協会出版会 遠藤俊子 助産師基礎教育テキスト 7 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 日本看護協会出版会 我部山キヨ子 大石時子編 助産師のためのフィジカルイグザミネーション 医学書院		

区分	助産診断・技術学		授業科目名	助産診断・技術学Ⅲ（産褥・新生児期にある対象の助産診断と技術・ハイリスク新生児に対する援助技術）	
単位数	2単位	時間数	45時間	担当教員	福田佳枝 森カヨ 菅仁美
特記事項	実務経験のある教員（専任教員 福田佳江）による授業科目			産婦人科病院での助産師の実務経験を活かし授業・演習を行う。	
科目目的	産婦・新生児に対する助産診断およびケアを実施するための基礎知識・技術を修得する。また、ハイリスク新生児に対するケアの基礎知識および基本的な新生児蘇生法の技術を修得する。乳幼児における助産診断とケアについての基礎知識を修得する。				
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産褥期の助産診断の特徴と過程を理解する。 2. 産褥期の助産診断に必要な産褥の生理、心理社会的変化について理解する。 3. 身体的、心理社会的側面から産褥期における助産診断ができる。 4. 産褥期の助産診断のための健康診査の技術を習得する。 5. 産褥期の助産ケアに必要なエビデンスをふまえた技術を習得する。 6. 母乳育児支援のための乳汁分泌の生理について理解する。 7. 母乳育児を援助するための技術を習得する。 8. 新生児期の助産診断とケアについて理解する。 9. 乳幼児期の健康診査について理解する。 				
授業内容	回数	テーマ	教育内容	担当	
	1	産褥期の身体的変化とフィジカルアセスメント	産褥期の生理 産褥期の全身の変化 子宮の復古 問診 外診 内診 生化学的・生理学的検査 全身状態のアセスメント 子宮復古のアセスメント 乳汁分泌のしくみ、母乳栄養確立のアセスメント⇒詳細は別の回へ 【小テスト】	福田	
	2	産褥期の身体的変化とフィジカルアセスメント	母子相互作用 愛着行動 出産体験の受容（出産体験の自己評価と母親役割行動の適応） 疲労感・睡眠・身体的苦痛の把握 マタニティブルーズ主徴候の観察 育児能力の診断 産婦の心理 マタニティブルーズ 産後うつ 産褥精神病 ⇒心理社会学へ	福田	
	3	産褥期の助産診断の特徴と診断類型	産褥期の助産診断の特徴 産褥期の助産診断類型（マタニティ診断）	福田	
	4	産婦へのケア①	退行性変化促進のケア（ペーパー事例使用しロールプレイ）産褥期の不快症状への支援 日常生活適応の支援（産褥体操の実際） 母乳育児への支援⇒詳細は別の回へ 心理社会的側面の支援 家族計画の支援 ⇒ 詳細は診断技術Ⅳへ	福田	
	5	新生児のアセスメントとケア	出生後24時間以内の診断とケア 成熟度と適応過程のアセスメント 24時間以降の診断とケア 退院に向けての準備	福田	
	6	母乳栄養確立に向けたケア① 乳汁分泌の生理	乳汁分泌の解剖・生理 母乳の成分 児の吸啜	森	

7	母乳栄養確立に向けたケア② 妊娠～産褥期のケア	母親の意識と出産前の準備 授乳技術 乳房トラブルの予防 哺乳量の評価 直接授乳が困難な場合のケア方法	森
8	母乳栄養確立に向けたケア③ 演習	演習	森
9	新生児期のマタニティ診断の 進め方	新生児の助産診断類型の特徴 診断に必要な情報とアセスメント ケア計画 事例の展開について	福田
10	産褥期・新生児期の助産診断論	事例の展開	福田
11	産褥へのケア②	産後の家庭・社会生活復帰への支援 育児行動取得への支援 家族への支援《父親・母親・家庭と新生児の アタッチメントと形成支援》 出産に関する手続きと、地域資源の活用	福田
12	新生児に対するケア演習① 沐浴実施含む	沐浴実子含む新生児の計測・処置 2グループに分けて演習を行う	福田
13	新生児に対するケア演習②	沐浴実子含む新生児の計測・処置 2グループに分けて演習を行う	福田
14	乳幼児の健康診査	乳幼児健康診査の目的と意義 1ヶ月児健康診査 4ヶ月児健康診査 1歳6ヶ月児健康診査 3歳児健康診査 健診後の母子と家族の支援	川瀬
15	まとめ	事例によるワークのまとめ（課題について のグループワーク及び発表）	福田
16	ハイリスク・異常褥婦のアセス メントとケア	身体的ハイリスクのアセスメント 正常経過逸脱と助産診断 退行性変化を妨げる要因 逸脱の主な症状とそのケア 帝王切開術後の褥婦への支援	福田
17	NICU とハイリスク新生児ケ ア①	ハイリスク新生児ケアの基本 生理学的適応をたすけるケア 体温管理 呼吸循環管理 水・電解質管理 感染予防	看
18	NICU とハイリスク新生児ケ ア②	生理学的適応をたすけるケア 栄養管理（母乳 人工乳 経管栄養） 母乳育児支援 輸液管理の知識と実際 保育器のしくみ 管理 使用方法	菅
19	NICU とハイリスク新生児ケ ア③	新生児における神経・行動学的発達 神経学的発達をたすけるケア 新生児の保育環境 ディベロップメンタルケアの概念・方法 タッチケア	菅
20	NICU とハイリスク新生児ケ ア④	親・家族のケアと協働 （入院時・急性期・回復期）退院調節 早産児・超低出生体重児のケア	菅
21	新生児の蘇生	日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法普及事業に よる「一次」コースに沿った講義演習 蘇生に必要な呼吸循環動態の基礎知識 新生児の蘇生法アルゴリズム NCPR Bコース プレテス	菅

	22	新生児の蘇生演習	蘇生法の実際（演習） NCPR Bコース ポストテスト	菅
	23	終了試験		福田 森 菅
授業方法	講義 演習			
評価	筆記試験 90%、事例展開の課題 10% 100点満点 60点以上合格			
教科書	<p>我部山キヨ子・武谷雄二編 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ（分娩・産褥期）医学書院 2018</p> <p>我部山キヨ子・武谷雄二編 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ（新生児乳幼児期）医学書院 2018</p> <p>我部山キヨ子・大石時子編 助産師のためのフィジカルイグザミネーション医学書院 2018</p> <p>日本助産診断・実践研究会編著 実践マタニティ診断 医学書院 第4版 2016</p> <p>田村正徳監修 日本救急蘇生ガイドライン 2015 に基づく新生児蘇生法テキスト第3版 メジカルビュー</p> <p>病気が見える VOL10（第4版）産科 MEDIC MEDIA 2019</p>			
参考文献	<p>横尾京子 助産師基礎教育テキスト第6巻 産褥期新生児期・乳幼児期のケア日本看護協会出版会</p> <p>日本助産診断・実践研究会編著 マタニティ診断ガイドブック第4版 2016 真興交易医書出版部</p> <p>母乳育児支援スタンダード 2013 医学書院</p> <p>写真でわかる助産技術アドバンス 2016 インターメディカ</p>			

区分	助産診断・技術学		授業科目名	助産診断・技術学IV（健康教育・保健指導）	
単位数	2 単位	時間数	45 時間	担当教員	福田佳枝 本田万里子 緒方恵里香
特記事項	実務経験のある教員（専任教員 福田佳枝）による授業科目			産婦人科病院での助産師の実務経験を活かし授業・演習を行う）	
科目目的	周産期の対象への保健指導、健康教育が実践できるための基本的な知識・技術を修得する。 ライフサイクル各期における女性の健康生活を支援するための基礎知識・技術を修得する。				
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育活動を実践するための理論と教育方法を理解する。 2. 個人に対する保健指導の実際を理解する。 3. 集団に対する健康教育を企画し、学内の演習で実施できる。 4. ライフサイクルごとの健康問題に対する健康教育の内容・方法を理解する。 5. 家族計画指導のための基礎知識を理解し、指導計画を立案できる。 				
授業内容	回数	テーマ	教育内容		担当
	1	相談・教育活動の技術① 教育技術実践のための理論と教育方法 助産師の行う教育・保健指導	教育と学習の理論 行動論 認知論 健康教育の理論 教育の方法 指導者中心型 協同学習型 学習者中心型 視聴覚媒体 eラーニング 学習方法の選択と学習理論		福田
	2	相談・教育活動の技術② 相談技術 相談・教育活動の実際 ①個人へのアプローチ	カウンセリング コミュニケーション 意思決定支援 アサーティブネス ネゴシエーション 個人指導の基本 個人指導の特徴 電話相談の展開 家庭訪問の展開⇒第 20・21 回へ		福田
	3	②集団指導へのアプローチ	集団指導の特徴 集団指導の利点と欠点 集団指導の条件 集団の基本的機能 集団指導の方法		福田
	4	健康教育の技術 健康教育の進め方	健康教育の概念(健康教育と保健指導) 健康教育の目的・対象と場・プロセス 健康教育の準備・計画・展開と評価		福田
	5	性と生殖に関する健康教育① 性の健康教育 (思春期の対象者)	性の健康教育（内容と方法） ・対象と場の設定 ・目的と実践内容 ・評価、留意点		福田
	6	性と生殖に関する健康教育② 性の健康教育	授業の展開例【1】		福田
	7	性と生殖に関する健康教育③ 性の健康教育	授業の展開例【2】		福田

8	産褥期の保健指導・健康教育の実際	退院に向けた指導 育児技術の指導 沐浴指導 沐浴の集団指導のための指導案パンフレット作成	福田
9	産褥期の保健指導・健康教育の実際	沐浴指導 沐浴の集団指導のための指導案パンフレット作成 (課題)	福田
10	家族計画指導①	家族計画の意義 受胎調節法と家族計画指導 各種受胎調節法 模型を用いた演習	福田
11	家族計画指導②	家族計画指導の実際 個別指導・集団指導 について	福田
12	家族計画指導③	産後の家族計画指導案作成 グループワーク	福田
13	家族計画指導④	産後の家族計画指導 ロールプレイ	福田
14	母親学級企画・運営 企画書作成の実際	企画書立案のポイント 指導案立案のポイント グループワーク 『母親学級のテーマ』を 考える	福田
15	母親学級企画・運営 企画書作成の実際	グループワーク	福田
16	母親学級企画・運営 指導案作成の実際	グループワーク	福田
17	母親学級企画・運営 実施準備	発表準備	福田
18	母親学級発表と評価	グループごとの発表・評価	全員
19	母親学級発表と評価	グループごとの発表・評価	全員
20	家庭訪問における母子への支援①	家庭訪問時の母子支援の内容 家庭訪問時の母子支援方法	緒方
21	家庭訪問における母子への支援②	ロールプレイ	緒方
22	不妊治療を受ける女性への カウンセリング	不妊によるストレス 不妊カウンセリングの方法	本田
23	終了試験		福田
授業方法	講義 グループワーク ロールプレイ 技術演習 沐浴指導案・パンフレット作成 母親学級企画・発表		
評価	筆記試験 50%、レポート 10%、沐浴指導（パンフレット 指導案） 20% 母親学級企画・発表・自己の振り返り 20% 100点満点 60点以上合格		
教科書	我部山キヨ子・武谷雄二編 助産学講座 5 助産診断・技術学 I 医学書院 2018 木村好秀 齋藤益子 家族計画指導の実際第 2 版 医学書院 2017 我部山キヨ子・毛利多恵子編 助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健医学書院 2018 これさえあれば訪問活動ができる 新生児訪問活動実践マニュアル 大阪府助産師会		

参考文献	吉沢豊予子 助産師基礎教育テキスト第2巻 女性の健康とケア 日本看護協会出版会 2019 久保春海編 不妊カウンセリングマニュアル メジカルビュー社 2001 社団法人日本家族計画協会 新・受胎調節指導用テキスト いのちの教育 メディカ出版 2008
------	--

区分	地域母子保健		授業科目名	地域母子保健	
単位数	1 単位	時間数	30 時間	担当教員	上田公代
科目目的	地域で生活する母子を含めた家族の多様なニーズに対応できるよう、保健医療福祉チームの一員として他職種と連携協働しながら、保健活動を展開するために必要な知識技術を修得する。				
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域母子保健の意義、しくみ、展開について理解する。 2. 地域母子保健と女性への支援について理解することができる。 3. 地域母子保健と子育て支援について理解することができる。 4. 子育て支援の実際と社会資源の活用および助産師の役割について理解することができる。 				
授業内容	回数	テーマ	教育内容		担当
	1	地域母子保健の概論	地域母子保健の意義 母子保健の現状と課題 母性保護統計 地域母子保健のめざすもの 健やか親子21		上田
	2	地域母子保健の仕組み	わが国の母子保健行政の体系 地域母子保健を展開する場とマンパワー・ネットワーク		上田
	3	地域母子保健活動の展開 ①	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ DVによる健康被害と保健活動		上田
	4	地域母子保健活動の展開 ②	子どもの安らかな発達の促進と育児不安の軽減		上田
	5	地域母子保健活動の展開 ③	疾病と事故の予防		上田
	6	地域母子保健活動の展開 ④	疾病や障害に対する医療と療育		上田
	7	地域母子保健活動の展開 ⑤	思春期保健対策強化と健康教育の推進		上田
	8	地域母子保健活動の展開 ⑥	エンゼルプランと母子保健計画		上田
	9	地域母子保健活動の展開 ⑦	市町村の母子保健活動		上田
	10	地域母子保健活動の展開 ⑧	民間非営利の地域子育て活動		上田
	11	地域母子保健と国際協力	ラオスにおける国際協力活動の実際		上田
	12	地域母子保健と国際協力	在日外国人の母子保健 妊娠 出産への支援 世界の家族計画 母子保健の潮流		上田
	13	子育て支援の実際と助産師への期待	家庭訪問 電話相談 ハイリスク時への支援 新生児・産婦訪問 母乳育児ケアと乳房ケア 地域における講師活動 助産師会の地域活動		上田
	14	まとめ	グループワーク「期待される助産師の地域保健活動について」		上田
15	終了試験			上田	
授業方法	講義、グループワークなど				
評価	筆記試験 100% 100点満点 60点以上合格				
教科書	助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 第5版 医学書院 2016				
参考文献	助産師業務要覧 実践編 第3版 日本看護協会出版会 我部山キヨ子著 臨床助産師必携 第2版 医学書院 高野陽他 母子保健マニュアル 改訂6版 南山堂 2007				

区分	助産管理		授業科目名	助産管理学	
単位数	2単位	時間数	45時間	担当教員	桑原 美保 森カヨ 志賀陽子 馬崎雅子
特記事項	実務経験のある教員（専任教員馬崎雅子）による授業科目			産婦人科病棟での助産師の実務経験を活かし授業・演習を行う。	
科目目的	自律性の高い専門職者として経営管理に参画または自ら施設を運営して、助産の対象者が求める質の高いケアを提供していくための基礎的知識を修得する。 また、助産を取り巻く社会状況に目を向けて助産師としてのあり方を展望し、助産ケアを創造し社会に発信していく人材としての力を育む。				
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産管理に必要な管理の基本概念および業務管理の方法を理解する。 2. 周産期医療システムの全体像を理解し、現状から課題を考える。 3. 周産期の医療安全対策の実際について理解し、安全管理の実践者としての意識が高まる。 4. 病産院における具体的な助産管理のあり方、方法について理解する。 5. 助産所設立の模擬体験をとおし、助産所管理に必要な基礎知識を理解する。 6. 災害と助産師活動について理解する。 				
授業内容	回数	テーマ	教育内容		担当
	1	管理の基本概念 (経済学の理論や看護管理をベースに理解する)	助産管理を学ぶ意義・必要性 (概論の「助産師のコアコンピテンシー」などから想起) 管理の基本概念 マネジメントの概念・看護におけるマネジメント (マネジメントプロセス、マネジメントサイクル、ケアのマネジメントと看護サービスのマネジメント) 看護サービスとしての概念 看護実践の組織化としての看護管理(看護実践の組織化の基準を参考) 組織とメンバーシップ・リーダーシップ		桑原
	2	助産管理の概念 関連法規と助産師の義務・責任	助産管理の定義 助産師の業務範囲(ICMや保健師助産師看護師法) 助産業務管理の特性 関連法規 法律に規定された助産師の義務		桑原
	3	助産と医療経済 病院の財務管理	医療保険制度と助産業務 助産業務の診療報酬 分娩費用 経営上の会計のしくみ 財務管理の基本		桑原
	4	助産業務管理の方法①	組織管理 助産管理の組織化 組織の体制作り 病院組織内における看護部組織 看護組織の目標管理制度 人事管理 助産師のキャリア開発支援		桑原
	5	助産業務管理の方法②	組織管理 情報管理(書類管理) 業務の質管理 助産分野の機能評価		桑原
	6	周産期医療システム①	周産期医療のシステム化と連携の構築 母体搬送システムの全体像 熊本県の周産期医療提供体制		馬崎

7	周産期医療システム②	医師不足に端を発したチーム医療の推進 周産期医療体制の抱える課題 分娩施設の機能分化と医療スタッフの偏在 産科病棟の混合病棟化 オープンシステム	馬崎
8	周産期医療システム③ 院内助産システムの推進	院内所産システム推進の背景 院内助産システムの定義 院内助産開設の実際（助産外来 院内助産）	馬崎
9	病産院の助産業務管理 産科棟の助産管理	産科棟の看護体制 多様な勤務形態 継続的な援助システム クリニカルパスの導入 日本の周産期医療の変遷	志賀
10	病産院の助産業務管理 外来の助産管理	外来の看護体制 外来の環境整備 外来における助産師の専門性 助産師外来 母乳外来	志賀
11	助産所における助産業務管理 ①	助産所の管理に関する法規 助産所の定義 助産所の管理者 管理者の義務 助産所の構造と設備	森
12	助産所における助産業務管理 ②	助産所の管理・運営 助産所管理の基本 嘱託医との連携 救急時の搬送 環境・設備・備品 オープンシステム	森
13	助産所における助産業務管理 ③	助産所経営 経営診断 母子における社会保険制度 医療貸付制度 出張助産 自宅分娩における社会保険制度 自宅分娩の準備 自宅分娩時に留意事項	森
14	助産所運営・管理演習	助産所設立シミュレーション グループワーク	森
15	助産所運営・管理演習	助産所設立シミュレーション 発表	森
16	周産期の医療事故とリスク マネジメント①	リスクマネジメントとは 医療事故の定義 ヒューマンエラー 医療安全に関する法律・制度 産科医療の特徴 医療事故発生時の対応 組織における医療安全対策	馬崎
17	周産期の医療事故とリスク マネジメント②	医療事故の法的責任 医事紛争の解決 産科医療補償制度 職能団体による取り組み	馬崎
18	周産期の医療事故とリスク マネジメント③	助産師の診療行為と責任 開業助産師の業務責任 助産業務ガイドライン 事故事例 産科の医療安全上の課題	馬崎
19	周産期の医療事故とリスク マネジメント④	助産業務におけるリスクマネジメントの実際 産科病棟における安全対策（連れ去り、取り違え、窒息、転落、STS、薬剤使用、医療機器、妊産婦間違い）感染対策 助産録の記載 人的システム	志賀

	20	周産期の医療事故とリスクマネジメント⑤	助産師におけるリスクマネジメントの実際 インシデント事例研究	志賀
	21	災害と助産師活動①	災害時における助産の原則 災害時の母子ケアの実際 被災地における助産師の健康管理	志賀
	22	災害と助産師活動②	災害後の心的反応に対するケア 母子の災害援助のための教育と訓練 ボランティア活動への参加	志賀
	23	終了試験		桑原 志賀 馬崎
授業方法	講義、グループワーク			
評価	筆記試験 80%、助産所設立シミュレーション発表 20% 100点満点 60点以上合格			
教科書	武谷雄二 前原澄子編 助産学講座10 助産管理 医学書院 福井トシ子編 新版 助産師業務要覧 第3版 I基礎編 日本看護協会出版会 2021 福井トシ子編 新版 助産師業務要覧 第3版 II実践編 日本看護協会出版会 2021 福井トシ子編 新版 助産師業務要覧 第3版 IIアドバンス編 日本看護協会出版会 2018			
参考文献	成田伸 助産師基礎教育テキスト 周産期における医療の質と安全 日本看護協会出版会 日本助産師会助産業務ガイドライン改訂特別委員会 助産業務ガイドライン 2019 日本助産師会出版 助産所開業マニュアル 2011年改訂版 日本助産師会出版 原玲子 学習課題とクイズで学ぶ看護マネジメント入門 日本看護協会出版会 2011			

区分	研究		授業科目名	助産学研究	
単位数	1 単位	時間数	30 時間	担当教員	前田ひとみ 専任教員
科目目的	実践上の疑問に関して既存の論文を検索し、批判的に読みとることで研究成果を実践に活用できることの意義が分かる。また、文献研究をとおして基本的な研究方法について理解し、助産学における研究の意義を理解する。				
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産に関連する既存の論文を読み、内容を批判的に読み取ることができる。 2. 文献検索の方法が分かり実施できる。 3. 各自がテーマをもち、文献研究として論文にまとめる。 4. 発表を通してプレゼンテーションの技法が分かり、他者の発表を聴くことで研究成果を共有することの意義が分かる。 5. 研究により新たな発見があることの面白みに気づき、助産学における研究の意義を理解する。 				
授業内容	回数	テーマ	教育内容		担当
	1	研究の基礎知識①	助産学における研究 研究の種類（質的研究 量的研究の概略）		前田
	2	研究の基礎知識②	研究のプロセス（研究計画から論文作成まで） 研究における倫理		
	3	研究の基礎知識③	文献検索の方法・実際 医中誌デモ版を使用しての実際		
	4	研究の基礎知識④	研究計画書作成の進め方 リサーチクエスションの絞り込み		
	5	研究の基礎知識⑤	論文クリティークの方法		
	6	研究の基礎知識⑥ 論文のクリティーク	論文の読み取りと要約 助産学研究における先行研究を読んで、何が書いてあるのか要約しよう		
	7	研究の基礎知識⑦ 論文のクリティーク	クリティーク発表		
	8	研究の基礎知識⑧	文献レビューとは 文献レビューにおける研究計画書作成・論文作成		
	9	助産学研究の実践①	文献レビューの進め方、論文作成、発表までの進め方		馬崎
	10	助産学研究の実践②	文献レビューにおける研究計画書作成		
	11	助産学研究の実践③	発表の方法		
	12	助産学研究の実践④	論文作成研究		教員 全員
	13	助産学研究の実践⑤	発表		
	14	助産学研究の実践⑥	発表		
	15	助産学研究の実践⑦	発表 まとめ 助産学における研究の意義		
授業方法	講義 演習				
評価	文献レビュー評価表による評価 100% 100 点満点 60 点以上合格				
教科書	我部山キヨ子・武谷雄二編 助産学講座 1 助産学概論 医学書院 大木秀一 看護研究・看護実践の質を高める文献レビューの基本 医歯薬出版 2013				

参考文献	早川和生 JNN スペシャル NO94 看護研究の進め方、論文の書き方 第2版 医学書院 山川みやえ 牧元清子 よくわかる看護研究論文のクリティーク 日本看護協会出版会 2014 山崎茂明 六本木淑恵 看護研究のための文献検索ガイド 第4版 日本看護協会出版会 石井京子 多尾清子 ナースのための質問紙調査とデータ分析 医学書院 2002 スー・プロクター編集 前原澄子監訳 助産学研究入門 医学書院 2003
------	---